

ふれあい

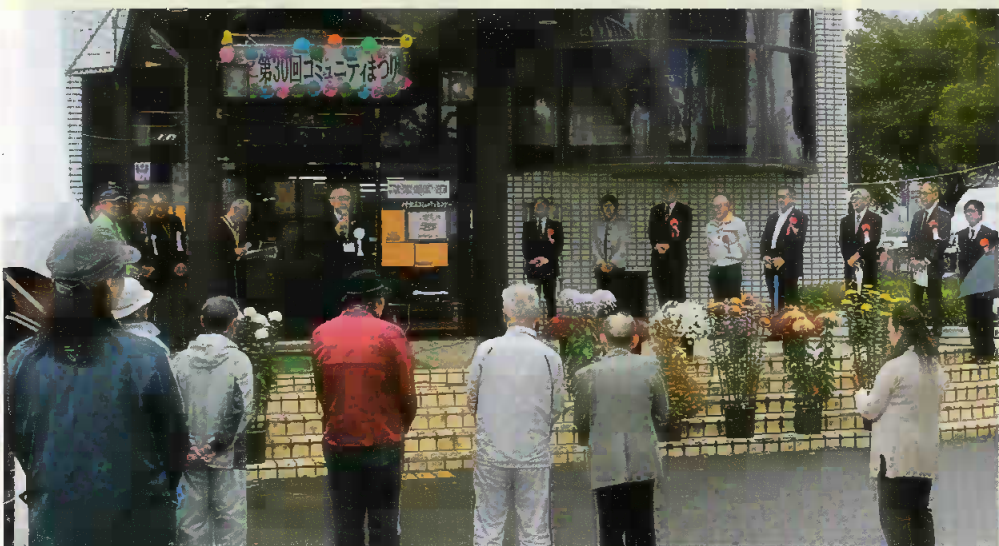
主な内容

- 第30回一中地区コミュニティまつり 1P
- 第30回を迎えたコミュニティまつり 1P
- コミュニティまつり各コーナーいろいろ 2P
- あれや・これや/私のたのしみ 3P
- 地域のわだい 3P
- 地域の公園紹介/活動団体紹介 4P
- 部会だより/他 4P

●発行所/ひたちなか市長堀町 3-4-1 (1 中地区コミュニティセンター内) 電話 029-275-2671 ●発行責任者/坂井 久彦 ●編集/広報委員会

第30回 一中地区コミュニティまつり

11月14、15日「第30回一中地区コミュニティまつり」が開催されました。あいにくの雨模様でしたが、2日目は雨が上がり大勢の来場者で賑わいました。館内には力作が展示され、館外にはいろいろな模擬店が並び、人気コーナーは朝早くから長い行列ができていました。



第30回を迎えた

コミュニティまつり



一中地区地域の
ふれあいを広める会
事務局長 川島 博

コミュニティセンターは、昭和61年11月9日の開館と共に一中地区地域のふれあいを広める会」を設立し、その初代会長に武石富康氏(勝倉)が就任されました。その年度の2月に第1回のコミュニティまつりを開催し、今年で第30回を迎えることができました。

当時の祭りは、館内の1階は利用団体による作品の展示、2階は展示と芸能発表(ダンス・歌など)、3階は展示・喫茶・茶道教室が行われました。館外では、現在も実施している餅つきコーナー他4コーナーが設けられました。その後、芸能発表は参加団体の増加や出演内容の充実により「芸能音楽祭」として会場を文化会館へと移し、各団体の発表の場として盛大に実施されています。

今年の祭りは、心配された雨も上がり親子連れなどで大いに賑わいました。

これからも祭りなどを通して、人と人のふれあいを大切に、潤いのある地域づくりを目指して、微力ながら努力していきたいと考えております。地域の皆様の一層のご理解とご協力をお願いいたします。



各コーナー いろいろ



あ〜ん



“焼芋” いっぱい焼けたよ〜



匂いに誘われて“やきとり”コーナー



ケガしないでね!



さあ〜もう少しダ!!



なかなかとれない!



いい筆遣いですね!



本間市長も来館



お客さん待ってるよ〜



コーヒーでひと休み



温ったまるネエ〜



どの花にしようかな〜

「おもいやり市場」を通して

福祉部副部長 大内 由利子

今年も福祉部会は「おもいやり市場」を担当しました。

小雨降る中でスタートになり、販売品が売れるかどうか心配しましたがほぼ完売しました。販売品は、じゃがバター・ゆず味噌おでん・ジュース類・駄菓子で、その他3か所の福祉施設の作品及び製品です。駄菓子売り場に10円玉を握って買いに来る子どもや、福祉施設のクッキーを求める老夫婦など、たくさんの方たちと「おもいやり市場」を通して、暖かい交流が育まれた一日でした。



折り紙体験コーナー

折り紙教室「さわやか」代表

高野 きみ子

平成12年コミセン主催の折り紙講座から始まり、2年後に自主折り紙教室「さわやか」となりました。月一回の講座の他、学校や施設などの出前講座を行っています。

今年の折り紙体験コーナーは、来年の干支「申」にちなんで5種類の猿を準備しました。幼児からシニアまで約40人が体験。ひと折りひと折り真剣に挑戦し、出来上がった時は、笑顔がこぼれていました。皆さんの楽しそうに折っている姿を見て、日本から生まれた伝統文化の折り紙を、これからも続けていきたいと思えます。



私のたのしみ

人生を愉しむ

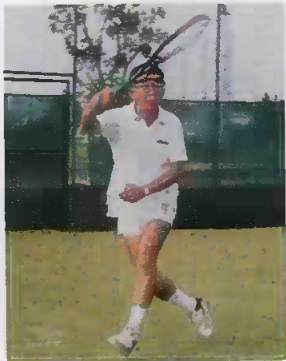
鎌田 顕一さん (72)



大平にお住まいの鎌田顕一さんに、多彩な趣味についてお話を伺いました。

鎌田さんは32歳の頃、転職した職場の仲間を誘われてテニスを始めたそうです。それから退職するまでは土・日に、その後は週3日(月・水・金)と、40年間テニスを楽しんできました。Tomorrow(明日)という名のテニス好きの集まるこのグループは、様々な人々の出入りを経て、今は当時の仲間3人を含む12人ほどで活動しているそうです。午後1時から5時まで4時間、かなり体力が要るので「今年の夏は、何回か熱中症になって点滴を受けたよ」と笑いながら話してくれました。「良いショットを打った時のパーンという手ごたえが、テニスの醍醐味」「同年代の仲間がいるっていいな」鎌田さんは楽しくて仕方がない様子です。

テニスだけでなく、定年になってから始めた水彩画にも熱中。お部屋には、奥様をモデルにした美人画が数枚飾られていました。また、週1は健康体操にも通っています。「健康だからできること。僕の健康を考えて、ワイフが食事を作ってくれるからね。家の外ではテニス、内では絵を楽しんでいるよ」と愛妻家の鎌田さんは、毎日精力的に活動しています。「今が一番楽しい!こんなに好きなことが続けられて、幸せだよ!!」と言う、人生を愉しんでいるお姿に感動しました。



あれや・これや

二七電話詐欺に注意

西中根自治会
益子 智子

ある朝、電話が鳴った。「もしもしお母さん、英二だけのこと言え。」「どうしたの」と聞くと、「喉に何かかきこえているみたいで、今東京の病院にいるんだ。病院の中だからあまりよく伝えられない。」「えっ、昨日大阪に帰ったばかりじゃないの?」「うん、でも今日東京でミーティングがあるから出張で来たんだけど、上司に喉の話をしたら、すぐ行けと言った。来たんだ。私は直感でおかしいと思った。次男は自分で仕事をしているから上司はいない。そこで受話器を主人に渡した。急いで息子の携帯に電話すると本人が話した。やっぱり二七電話詐欺だったのだ。通話中の主人にそのことを伝えると、指でOKサイン。「もう、電話しなくてもいい!」と怒って電話を切った。その後20分おきに電話が鳴ったが、留守電話しておいたので、事なきを得た。



その後も、今度は長男の名を騙って、同じパターンの電話が来た。皆様も、くれぐれも二七電話詐欺にご注意ください。

敬老会あれや・これや

東中根団地自治会長
伊野 昂

敬老の日、兵庫県のある村で昭和22年に提唱された「としよりの日」が始まりとされ、切に、知恵を借りて村作りをしよう」と9月15日を「としよりの日」と定め敬老会を開きました。昭和25年から兵庫県全体で、26年には全国社会福祉協議会が同日を「としよりの日」と定め、この日より一週間を運動週間としました。昭和38年に制定された老人福祉法で、同日を「老人の日」、同週を「老人週間」と定め、次の年から実施されました。さらに昭和41年には、国民の祝日として「敬老の日」が制定され、同時に老人福祉法でも「老人の日」が「敬老の日」に改められました。

このように、先人たちの約20年にわたるたゆまぬ努力によって誕生した「敬老の日」ですが、地域で行う敬老会は盛り上がりが欠けています。それは、75歳と80歳代の敬老会対象者間でも老人観に大きな違いがあることに加えて、核家族化の進展に伴い、高齢者からの経験に基づく知識や知恵の伝承が薄れ、長幼の序なる精神が希薄化してきていること。社会環境の変化に的確に対応した敬老会でないためと考えます。



地域のわだい

地域の“わ”を広げる球技大会

中根自治会

8月30日、今年で第30回の記念大会となる中根自治会主催の球技大会が、選手・役員230人の参加で開催されました。

ソフトボールは、11チームによるトーナメント戦が後野グラウンドで行われました。素早い動きの高校生から70代の往年の選手までが、熱戦を繰り広げました。またヘルスパレーボールは、男女混合6チームによるリーグ戦が中根小学校の体育館で行われ、はつらつとしたプレーに歓声が上がっていました。

練習時から地域一体となった雰囲気の中で、お互いの親睦と融和が図れる素晴らしい大会となりました。今後も、長く続けていきたい行事です。



長松倶楽部誕生1年

長松自治会長 桑原 武夫

私たちの自治会集会所(長松倶楽部)ができてちょうど1年。初めてここで、敬老祝賀会が行われました。建設の経緯は、以前は地元1中コメセンがあることで、自治会集会所建設の機運が盛り上がりませんでした。しかし、先の震災経験から「自主防災組織で地域全世帯の安否確認を行う拠点は、絶対必要」と判断しました。15ページにわたる建設趣意書を回覧した3ヶ月後、住民投票を行い、賛成多数で建設することが決まりました。幸運にも、公園内に建設できる公共建物の許容率が2%から5%に改定されたので、長い松や桜の木が残る美しい3000坪の長堀公園内に、長松倶楽部が建設されました。



アスレチック遊具の新設

勝倉小学校

勝倉小には、市内小学校には珍しいアスレチック遊具があります。子どもたちにとって、楽しい遊びの場です。

老朽化に伴い作り替えることとなり、今年の夏からアスレチック委員及び自衛隊に勤務する保護者が中心となって、校門近くに新しいアスレチックが作られました。遊具の数は以前に比べ減ったようですが、木立の中にあった時よりも日当たりが良くなり、子どもたちの遊ぶ姿がより楽しげに感じられます。



製作中

